SURE 静岡大学学術リポジトリ
Shizuoka University REpository

IV 海外学生派遣
(年次報告(平成25年度後期・26年度前期))

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2015-03-19 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 熊井, 浩子, 松田, 紀子 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.14945/00008124

Ⅳ　海外学生派遣

熊井　浩子／松田　紀子

国際交流センターでは、在校生の海外留学を推進するため、『静岡大学からの海外留学』（海外留学に関するガイドブック）を作成・配布するとともに、25年度から4月の新入生ガイダンスの際にセンターニュース及び「静大からの海外留学」（海外留学パンフレット）を配布している。併せて、過去の留学プログラムやイベント等の参加者のメーリングリストやHP・電子掲示板等での募集情報やイベントの紹介等も行っている。今年は特に、新入生への広報が功を奏し、海外留学フェア、TOEFL勉強会等や、夏季短期留学などに1年生の参加が増加している。

派遣に関する主なイベントとしては、海外留学フェア（留学説明会）、夏季短期留学説明会やTOEFL説明会・勉強会などを開催し、留学についての情報提供や語学学習のサポートを行っている。さらに、国際交流課（静岡キャンパス・共通教育Ａ棟4階）及び国際交流センター資料室（浜松キャンパス・合同棟1号館3階）に、各国別の最新の資料を提供する棚を設置し、派遣留学やTOEFLに関する情報提供を行うほか、センター及び課で留学相談も適宜実施している。

また、25年度前期からは年2回の海外留学フェア、前期のILUNO説明会に加えて実施していた留学先・プログラム別の海外留学miniフェアを平成26年度前期には海外留学ランチアワーと改称して開催するなど、きめ細かな対応を行っている。平成26年度前期には、帰国成果報告会も開催し、留学希望者への情報提供に加え、留学経験者自身が留学を振り返り、その成果と新たな目標を確認する機会としている。

また、交換留学に関しては留学前指導にアカデミックイングリッシュ（全2回）を実施したほか、TOEFL団体受験の回数を増やすなど、英語力の面でのサポートも強化した。

また、25年度後期に初めて春季短期留学（イギリス・中国）を実施した。

加えて、26年度には静岡大学が日本エマージェンシーアシスタンス株式会社によるOSSMAの会員となり、26年度後期以降国際交流センターの留学プログラムで留学する場合は、この個人会員となることを義務づけるなど、危機管理体制の整備も勧めている。

主な派遣プログラム及び活動は以下の通りである。

1．大学間協定に基づく交換留学

平成26年度には以下の8大学15名の学生が大学間協定に基づく交換留学生として選考され、26年8月に留学を開始している。括弧内は、当該学生の所属学部を表す。なお、派遣学生23名中、募集条件を満たした14名の学生がJASSOの留学生交流支援制度（短期派遣）の助成（月額平均7万円）を受けることができた。

26年度交換留学派遣者は例年よりやや少なくなっているが、これは昨年に引き続き韓国の協定校への派遣学生がゼロであったのに加え、カナダ・アルバータのTOEFL iBTのスコアが71以上となったこと、チェコ・マサリク大学の英語スコアの基準が高くなったことな

どがその主な原因である。

アメリカ・ネブラスカ大学オマハ校　3名（人文社会科学部、教育学部、情報学部各1名）
カナダ・アルバータ大学　1名（理学研究科1名）
フランス・ロレーヌ大学　3名（人文社会科学部3名）
中国・浙江大学　1名（人文社会科学部1名）
スロバキア・コメニウス大学　3名（教育学部2名、人文社会科学部1名）
ブルガリア・ソフィア大学　1名（人文社会科学部1名）
ドイツ・イエナ応用科学大学　2名（工学研究科2名）
ラトビア：リガ工科大学　1名（情報学部1名）

交換留学に関しては、選考後に派遣前に全3回の留学前ガイダンスを実施し、留学前の準備や危機管理等に関する講義、留学経験者や協定校からの留学生も招いたディスカッション等を行うことにより、学生自身が主体的に準備に取り組めるような機会を提供しているほか、OSSMAによる危機管理ガイダンスも実施した。

また、平成26年度からは報告書に加え、留学前から留学後のキャリア形成も視野に入れた留学ポートフォリオ作成を義務づけるなど、留学を次のステップに結びつけるための指導を行っている。

2．ILUNO（Intensive Language Program at the University of Nebraska at Omaha: ネブラスカ大学オマハ校集中語学プログラム）

平成26年度アメリカ・ネブラスカ大学オマハ校における集中語学プログラムにILUNOに17名（教育学部8名、工学部1名、人文社会科学部4名・農学部2名、情報学部2名、理学部0名）が参加した。そのうち、8名は協定に基づく96週分の授業料免除枠での参加である。なお、2月24日に渡航前ガイダンスを実施した。

また、平成27年度募集に先立ち、7月17日にはILUNO説明会を実施し、情報提供に努めた。

3．平成25年度春季短期留学

平成25年度より、春休みにイギリス・中国での短期留学を開始した。それぞれのプログラムの概要は以下のとおりである。

① イギリス、サセックス大学短期語学研修

A）実施概要
期　　間：平成26年2月15日㈯～3月17日㈪（32日間）
研修機関：イギリス　サセックス大学（University of Sussex Language centre, UK）
費　　用：464,299円
参加者数：9名（情報学部3名、工学部3名、農学部1名・理学部2名）
渡航前ガイダンス（3回）：12月5日、1月16日、2月11日

英語コース：

履修期間は4週間、サセックス大学のIntensive Englishコースにおいて履修する英語の授業時間は60時間（1.5時間×10クラス×4週間）。コース開始時にプレイスメントテスト（筆記、口頭）を受け、レベル別にクラスに配置される。

国際交流センターの運営面でのねらい：

- 提供する語学留学プログラムの選択肢を広げる（新しい渡航先：イギリス、春休み期間の時期設定：2月）
- 既存の短期留学プログラムと運営面、プログラム内容面で異なる形式のものを作る

B）既存のプログラムとの相違点、期待した効果

① 自由形式の留学：（基本）午前中授業＋ホームステイ（オプション）午後、週末の活動は大学が推奨するツアー会社等のプログラムを利用し各自が選択、手配

- グループ派遣の安心感を確保しながらも、集団行動を減らす→ひとりひとりが英語の環境にふれる機会を増やす。
- 課外活動の選択を個人の自主性に任せる。→文系、理系、各自のニーズ、個人の趣味や興味を反映したプログラム設計が可能。
- 自分で考え、何をするかを決め、行動をする機会を作る。→自主性と判断力を育てる。

② プログラムの運営方法の効率化

- 留学手続き（ビザ申請、送金、旅行手配等）の外部業者との連携→学内の運営コスト（人的）の低いプログラム。
- 研修先に直行便が利用可能な大都市に近い大学を選択→引率なし、もしくは最低限で運営が可能になり、担当教職員同行の手間を軽減される。

C）成果と課題

終了後に参加者を対象にしたアンケートでは「プログラム全体」と「ホームステイ」に関して、全員が「どちらかといえば満足」もしくは、「満足」と答えた。プログラム参加者の全体的なプログラムに対する満足度は、全般的に高かったといえる。一方で「英語の授業」と「課外活動」に関しては、各1名ずつが「どちらかといえば不満」と答えている。引率者の授業見学とプログラム実施者からのヒアリングから推測するに、スピーキング力にあわせて配置された英語のクラスでは、文法の授業のレベルが、参加者にとっては簡単に感じられたと考えられる。次年度の実施においては、参加者の英語クラスの配置へ考慮を依頼する必要がある。また、課外活動に関しては、全員が参加できるものを設定することを検討する予定である。

② 中国　北京華文学院短期語学留学

A）実施概要

期　　間：平成26年3月2日㈰～3月22日㈯

研修機関：北京華文学院

費　　用：19万7,330円

参加者数：4名（人文社会科学部4名）

渡航前ガイダンス（3回）：12月5日、1月9日、1月30日
コース内容：開校式
午前：中国語研修（1.5時間×12日）
午後：文化体験（書道、絵画、切り絵、手工芸、餃子作りなど）
夜　：武術、バドミントン、卓球など
木曜日、金曜日：観光（全日）（万里の長城、天安門広場、頤和園、オリンピックセンターなど
試験、閉校式

B）春季短期語学留学の成果と課題

① 華文学院の先生方の非常に熱心な指導のもと、学生たちはそれぞれの中国語の弱いところを徹底的に直され、中国語学習の成果を上げることができた。
② 実際に中国の旧跡を自分の足で確かめることによって、中国古来の皇帝の偉大さや歴史の長さを感じとることができた。
③ 渡航当時、北京の大気汚染が心配されたが、実際に行ってみると、意外と天気は良く、マスクが必要な日は数日だけだったという事実から、学生たちは日本で大きく報道されていることと現地での生の生活とは異なっていることを実感したようだった。
④ 華文学院は華僑のための語学学校という性質上、参加学生と同じ年代の中国人大学生と触れ合うことがなかった。また、途中からタイの中学生と混合クラスになり、お互いの中国語のレベルが異なっており、その点はフラストレーションだったようだ。

26年度以降これらの点をふまえ、より充実したプログラムとして安定的に実施するとともに、単位認定を行うことが課題である。

4．夏季短期留学

8月の1－2週目から3週間、アメリカ・ネブラスカ大学オマハ校（参加者14名）、カナダ・アルバータ大学（参加者15名）、韓国・朝鮮大学校（参加者7名）の3つの夏季短期留学が実施された。参加者を対象に5月29日、6月19日及び7月10日に3回の説明会を実施した。説明会では、スケジュールや手続き・準備等の説明及び留学経験者からのアドバイスや海外安全のための知識等についての紹介を行ったほか、アルバータ大学については、6月18日にアルバータ大学関係者が来訪して説明会を実施した。また、7月2日には静岡キャンパスで結団式が行われた。

夏季短期留学参加者は語学研修や文化体験、ホームステイ、旅行など盛りだくさんのプログラムを満喫して無事帰国した。

なお、ネブラスカ大学及びアルバータ大学の夏季短期留学については、それぞれ全学教育科目の英語科目「英語海外研修Ａ」「英語海外研修Ｂ」として単位化され、24年度以降入学者はこの科目を取得することができた。ネブラスカ大学・アルバータ大学参加者のうちの23年度以前の入学者および韓国サマースクール参加者については、従来どおり各自の申請にもとづき、全学教育科目の英語科目・韓国語科目（2単位）を認定した。このため、従来の体験談的な報告書の形式を改め、留学前の目標やその成果、新たな目標等についても

考察できるように修正を行った。その報告書の一部は センターホームページに公開されている。

5．協定校の短期研修プログラム

下記の協定校短期プログラムに本学学生が参加し、他の国・大学からの学生らとともに充実した研修を行うことができた。

① チェコ・マサリク大学“World in Transition and Central European Transformation：Lessons Learnt”、平成26年6月22日～7月12日：人文社会科学部1名

② タイ・キングモンクット工科大学“Sawasdee Camp Ⅱ”：平成26年8月4日～8月16日：人文社会科学部1名

6．海外留学フェア

平成25年度後期は10月17日に静岡キャンパス、10月10日に浜松キャンパスで、26年度前期は4月17日に浜松キャンパス、4月24日に静岡キャンパスで実施した。前後期ともに第1部では全体的な説明及び留学経験者によるパネルディスカッションを行い、第2部ではプログラム・協定校ごとにブースを開設し、留学生を交えて個別相談を行った。参加者は25年度後期静岡キャンパス85名、浜松キャンパスは23名、26年度前期は、静岡キャンパス53名、浜松キャンパスでは30名と、浜松キャンパスの出席者が増加傾向にある。

7．TOEFL説明会及びTOEFL勉強会・TOEFL ITP（団体受験）

海外派遣推進を目的として、TOEFLの試験情報の提供及び学内受験体制の整備に努めている。平成26年度は、年度当初に学内で開催するITP（TOEFL団体受験）の年間実施日程（年間4回）を定め、学内に周知をすることで、各学生が留学予定に合わせて計画的にITP受験をすることができるようにした。アメリカ・ネブラスカ大学等、一部交換留学協定校には、ITPスコアを英語力の証明として利用することができる。また、TOEFL日本事務局の国際教育交換協議会（CIEE）の担当者を招いたTOEFL説明会、大学教育センター英語教員によるTOEFL勉強会を各一回、行った。

- ITP TOEFL　学内実施
  第1回：2014年5月29日㈭、第2回：2014年7月24日㈭
  第3回：2014年11月6日㈭、第4回：2015年1月22日㈭
- TOEFL対策説明会
  2014年5月15日㈭　14：30～16：00
- TOEFL勉強会
  2014年6月5日㈭　13：30～15：00

7．VSCP（Visiting Students Certificate Program）説明会実施

カナダ・アルバータ大学で行われている語学研修と専門科目の単位取得を組み合わせたプログラムであるVSCPの説明会がアルバータ大学Gretchen Phillips氏を迎えて平成25年11月13日に開催され、8名の学生が参加した。

26年度前期派遣留学者は13名（26年5月開始4名、7月開始1名、9月開始8名）である。

8．刊 行 物

- 学生交流報告書
- 「静岡大学からの海外留学」（留学ガイドブック）
- 「静大からの海外留学」（留学パンフレット）
- 夏季短期留学ガイドブック